



★「気まぐれカモメ」
開店二周年
港にもてなしの場を

大震災を契機に元町にオーブンしたカフェ&ショットバー「気まぐれカモメ」が開店二周年を迎えた。

畠は家庭料理や喫茶が楽しめたホッとした雰囲気。夜は一軒、大人のムードが漂うお店だ。ランチの気まぐれ丼セット650円は日替わりメニュー。「壳り切れ御免」なのでお昼はお早めに。夜はカクテルがおススメ。桂花陳酒ペースのオリジナルカクテル「カモメ」900円と白ラムベー



今日は中国語のレッスン

0円が開業以来1、2位を争う人気だ。
一年ほど前から毎週火曜と水曜(午後3時~4時)に語学教室を開催。火曜日に英語、水曜日に中国語(北京語)を学んでいる。

「お店の生き残りにはオリジナリティが不可欠」とおっしゃる角本マスター。ユーモアあふれるマスター自身が「気まぐれカモメ」のオリジナリティと言えそうだ。

■ 気まぐれカモメ
神戸市中央区元町通2・3・4
大石ビル2F
☎ 078・333・1892
営業時間 10時30分~16時30分
30分~23時
18時

★「たっぷり召し上がり」
お気軽フレンチ

東急ハンズ近く、生田口一ドを少し下ったところに、4月21日、お洒落なフレンチ

スの「神戸カクテル」100円が開業以来1、2位を争う人気だ。
一年ほど前から毎週火曜と水曜(午後3時~4時)に語学教室を開催。火曜日に英語、水曜日に中国語(北京語)を学んでいる。

「お店の生き残りにはオリジナリティが不可欠」とおっしゃる角本マスター。ユーモアあふれるマスター自身が「気まぐれカモメ」のオリジナリティと言えそうだ。

■ 気まぐれカモメ
神戸市中央区元町通2・3・4
大石ビル2F
☎ 078・333・1892
営業時間 10時30分~16時30分
30分~23時
18時

★「たっぷり召し上がり」
お気軽フレンチ

東急ハンズ近く、生田口一ドを少し下ったところに、4月21日、お洒落なフレンチ

ストラランがオープン。ビルの2階から垂れ下がるフランス国旗が目印だ。店名「ボナベティ」は「たっぷり召し上がり」の意。フランスでは料理を出す時に添えられるお調理の言葉だそうだ。

ランチは1200円と2500円、ディナーは2500円、3500円と5000円の各コースにアラカルト。ランチの1200円に300円プラスでデザートがつく。

本場フランスで修業、ホテルを経て開店した上田敏見シェフとお店を切り盛りする夫

人・充恵さんの息もびったり。堅苦しいと思われるがちなフランス料理をもっと気軽に低価格で召し上がっていただきたい」とアットホームな空間作りをめざす。カウンター席での調理が見られるのも魅力。

■ ボナベティ
神戸市中央区下山手通2・1・17
城村ビル2F



可愛らしい、花柄プリントでまとめられた店内

営業時間 11時30分~14時 17時30分~22時
078・333・3848

★赤と黒のハードバップバー
「インディード!」



写真右が杉本朋也マスター

神戸市中央区北長狭通3・11・11
福一ビルB1F

ポケット ジャーナル



★「この街・素敵コンテスト」
新星和不動産が絵画・写真・エッセーを募集



日生ニュータウン「カリヨンの丘」佐々木悟郎画

新星和さんが「星」をブレゼント! 創業45周年・新星和不動産では、記念イベント「この街・素敵コンテスト」を実施中。自分が住んでいる街をテ

新星和さんが「星」をブレゼント! 創業45周年・新星和不動産では、記念イベント「この街・素敵コンテスト」を実施中。自分が住んでいる街をテ



佐藤夕美子さん

■新星和不動産内「友の会」事務局☎フリーダイヤル0120・296677

★NHK新ドラ「甘辛ishyan」成功祈願祭行われる

5月21日(水)、西宮神社で10月スタートのNHK朝の連続テレビ小説「甘辛ishyan」の成功祈願祭が行われた。震災から2年半を迎える地元では、ドラマのヒットが復興の起爆剤になればと期待寄せている。

物語の舞台は神戸・灘五郷の酒蔵。伝統と格式を重んじる世界で日々の苦難を乗り越え、「しゃん」とあがつた理想的な酒造りをめざす女性・榎の星」(国際星名登録システム)によりアメリカ議会図書館に永久保存)と旅行券(ジュニア部門は図書券)が贈られる。締切りは8月31日(必



呉小芸さんと「芦屋どんぐりコール」の子供達

5月26日神戸ハーバーサカスで、この夏開催の「パソナドリームシアター'97神戸ミニコンサート」の開催が発表された。小豆島の「芦屋どんぐりコール」の子供達が主役となる。

ユーモアにした作品(絵画・写真・エッセー)を募集している。大賞受賞者には「あなたの星」(国際星名登録システム)によりアメリカ議会図書館に永久保存)と旅行券(ジュニア部門は図書券)が贈られる。締切りは8月31日(必

と氣分はすでにヒロイン。歳代半ばまでを演じる。この女は、「口当たりが軟らかい」と氣分はすでにヒロイン。歳代半ばまでを演じる。この女は、「口当たりが軟らかい」と氣分はすでにヒロイン。

泉演じるのはミュージカル「アニー」の子役でもおなじみの佐藤夕美子さん(18歳)。ドラマでは19歳から40歳初めでお神酒を口にした彼女は、「口当たりが軟らかい」と氣分はすでにヒロイン。

泉演じるのはミュージカル「アニー」の子役でもおなじみの佐藤夕美子さん(18歳)。ドラマでは19歳から40歳初めでお神酒を口にした彼女は、「口当たりが軟らかい」と氣分はすでにヒロイン。

泉の半生。

泉演じるのはミュージカル「アニー」の子役でもおなじみの佐藤夕美子さん(18歳)。ドラマでは19歳から40歳初めでお神酒を口にした彼女は、「口当たりが軟らかい」と氣分はすでにヒロイン。

★誕生日ありがとうございます、お散歩出発!

今年度はHくんがお相手です。Hくんは三才、かわいいかわいい男の子。約五十分あまりの山道「一ースです。

さあ、お散歩出発!

Hくん、道にすわりこんで何がを取っています。冒へ行がないと音に遮れる……。そんなものさわったらダメよ!……」そんな禁止の言葉が私の心中をぐるぐるめぐってます。時計どにらめっこしながらハイライハイライハイ。

Hくん、やっと腰をあげ私の所に走ってきました。手に握りしめた小さな手を私の手の上でせつされました。ありがとうございます。私はフレゼントするためひいてくれたのだろうか? やう思つことにしました。「あっがとう!」素顔を隠して、そこを離してやりました。帰り道で小休止。小休止するのは私だけ。Hくんは、「……」と言ひながら、両手をいっぽいに広げて抱き合いかけ回します。Hくんは友達です。まるでHくんを待っていたかのように楽しそう抜け回ります。なかなかつかまありません。仕方なくHくんは公園の場の説明を抱いて、頭をなせねせするのです。Hくんにとってやさしい心づかいのある公園です。よかったです。Hくん。

あらゆる自然と友達になるHくんをみつめながら、あくせくと雑事に悩んでいた自分の反省をする一日です。Hくん、ありがとうございました。誕生日ありがとうございました。(運動部)

ティーポックスを設け、震災遺児や孤児を招待。収益金の一部は作家・藤本義一さんが

〒650 神戸市中央区橋通4-2-2
菊水模型ビル3F(漢川神社西)
TEL-FAX078-3200-1227

代表を務める「希望の家」建設準備会に寄付される。

ミューージカルは今年だけではなく、来年以降も継続して開催する予定。「震災を乗り越え、笑顔と弾む心で21世紀の創造にチャレンジする神戸の子供達を応援していきます」。

■期間 8月12日(火)～19日(火)
※16、18日はリハーサル日
場所 新神戸オリエンタル劇場
入場料 3000円(前売り同一料金・全席指定)

公演団体 バンダイミュージカル、エルダ(LDA)、EGG、ミックロコスマス、芦屋どんぐりコール

問い合わせ 97神戸ミュージカル実行委員会 TEL 078・362・8006



永島選手

★トアロードに永島選手と神野選手現れる

Jリーグ10節ジェフ市原の試合がユニバー記念競技場であった翌日の5月25日、トアロードにあるサッカーショップKAMOにヴィッセル神戸の永島昭浩選手と神野卓哉選手が訪れ、サイン会が開かれ

5月中旬から、阪急ミュージアムでは、司馬さんの作品と故・須田赳太画伯をはじめとする挿絵を集めた「街道をゆく展」が開かれた。作品以外にも司馬さんが書齋で愛用した眼鏡や万年筆、司馬さんの遺稿などが展示され、来場者は目を細めていた。

た。時ならぬ人の列に行き交う人々もびっくり。何があるんですか」と覗き込んでいた。

当日は全日本代表の加茂周長も来店。集まつた大勢のサッカー少年やファン約三百人が二選手と記念撮影後、サンと永島選手が契約しているLottoの景品をもらつた。その上、写真は後日店に飾られ、取りにきた本人に手渡されるなど、店の粋な計らいに大喜びだった。

★街道をゆく展

平成8年2月に他界した司馬遼太郎さんが「週刊朝日」に寄稿した「街道をゆく」は、一九七一年にスタートして以来、多くの人に愛読された。

国内外の72街道を歩き、連載回数は千百四十七にのぼる。これは四百字詰め原稿用紙に換算すると一万八千枚を越えるそうだ。



林氏のユーモアに会場からは時折笑いが

★第23回消費者プラザ展 「ともに創ろう明日のくらし」

5月30日、兵庫県立神戸生活科学センターで、第23回消費者プラザ展の開会式と記念講演が開かれた。

「ともに創ろう明日のくらし」が生み出す文體と、須田さんの生命感に満ちた墨絵が一体となった「紀行文の傑作」は、今後も愛読者を増やしつづけるであろう。

司馬さん独自の鋭い洞察力が生み出す文體と、須田さんの生命感に満ちた墨絵が一体となった「紀行文の傑作」は、今後も愛読者を増やしつづけるであろう。



須田画伯による司馬遼像

■神戸の本棚

★やる気が育つ教育のヒント 山本紹之介著



講談社
1400円

子供が勉強しない、「答えすぎる」親の惰みは尽きないが、口で言つてわからせるにも限界がある。子供を変えるより、まずは親自身が変わらなきゃ……? 彼らの可能性を信じることが「やる気」につながるのだそうだ。

肯定型教育のススメ。

子供の「やる気」を育てています。

★四国へんろ風景

伊藤太一著



読売新聞社
1200円

間連載された四国遍路記。

四国八十八か所、別格二十番札所に加え、阪神・淡路大震災慰靈供養を兼ねて巡った高野山・金剛峯寺までを収録。分か

りやすい文章と著者の手になる彫画があたたかい。信仰、仏縁にはほど遠いという人も一読を。少しやさしくなれます。

K.F.S. NEWS 178

神戸ファッション市民大学OBによるグループ
神戸のファッション都市化をめざす

事務局／神戸市中央区下山手通3-1-18
ツインズアピル4F 月刊神戸っ子内
TEL.078-331-2246

5月マンスリー講演

5月23日（金）18時30分より神戸市勤労会館にて／講師：株式会社大丸クレジットサービス 池本義治氏

「ショッピングマナーについて～上手な売り方・買い方」

現在では大丸クレジットサービスの大丸本社に勤務されている池本氏ですが、大丸百貨店に入社時から25年間は、外商一筋という接客サービスのベテラン。お客様との上手なお付き合いを通じた販売ノウハウを数々の思い出とともにお話し下さいました。

●店頭売りだけでなかった？

外商という商売があることすら知らなかつた新入社員の私は、入社して10日間程の研修を受けた後、いきなり法人担当として実践に出されました。右も左もわからないまま、前任者から引き継いだ200件にご挨拶をかねて営業するのですが、ある会社での出来事です。一般に法人の営業は総務部を窓口にすることが多いのですが、実はその会社のみ総務ではなく別に仕切っておられる人がおり、その人にお願いするべきだった！のです。自分を差し置いて総務に挨拶に通ったヤツという悪印象は、後の営業にもずっとマイナス要素として付いてまわりました。★教訓…初回営業の印象が、商売の成功権を握ること多し。最初のマイナスを簡単にはゼロに出来ないので、営業前の相手先調べは念入りに。お客様台帳の制作など引き継ぎ業務も重要です。

●お客様は七へん

お客様が機嫌の良い時に営業し、すんなり契約できて大喜び。ところが商品手配を済ませて持参した時にお客様がご機嫌斜め

だったから大変です。同一人物と思えない変わりようで、そんな契約をした覚えはないと追い返されました。お付き合いが基本の外商ですが、いつもお客様の機嫌が良いとは限らない。ましてやご機嫌ばかりを気にしていくには、こちらの神経がもしません。

★教訓…相手の機嫌バイオリズムをつかめ。不機嫌な時に伺って、良い話が流れにならぬよう、また機嫌伺いばかりで自分の神経が擦りへらないよう、事前に電話して様子を伺うなど、相手の性格や機嫌の流れをつかむ工夫を。

●販売の基本ルールはこれにつくる

長年、接客業務一筋に過ごしてきて、私なりに学んだことは、お客様へのサービスとは、いかに自分を信頼してもらえるか、つまり相手の要望にいかに迅速で心のこもった対応ができるかということ。マナーやサービスにゴールはありませんがお客様の言いなりになって振り回されるのではなく、自分が相手を調整、啓蒙する。店としてのポリシーを打ち出しながら、最低限ではなく、最高のマナーやサービスをできる環境を自分で作り出し、誰々さんだから安心と言っていただけの信頼を築きます。神戸は震災以降、大丸をはじめ、次々と新しいビルやショッピングが出来、ハード的には充実してきましたが、接客マナーを含めたサービスというソフト部分は、逆に質が落ちてい

るようと思えます。神戸大丸も、店は奇麗になつたが店員サービスが無茶苦茶といわれないよう

に、たとえ契約社員や派遣社員でも大丸にふさわしいサービスが出来る人員かどうか試験や教育を徹底するようにしています。

◎KFS（店側）からお買い物する際のお願い「お店のとて商品は命」

例えばファッショントピックなどでハンガーに掛けディスプレイしている場合、商品の肩部分にふれてお気に入りを探していませんか。何十人に肩を触れられた商品は、パットはへちゃげて売り物になりません。試着時に少し注意すれば、化粧が商品に付くことを防ぐのです。自分が買わなければ誰か他の人が買う可能性があるということを考え、ファッション都市・神戸にふさわしいスマートなお買い物マナーの実践をお願いします。



●7月マンスリーは、KFS総会です。

日時：7月18日（金）

受付18時 開会18時30分

場所：ホテルゴーフルリツツ15階

アンダルシアの間

会費：8000円

国際宝飾展に行く

第一回神戸国際宝飾展 I J K 97

福元 早夫 作家

六月十二日、JRの三宮駅前からポートライナーにのって、梅雨の晴れ間の神戸港を車窓にながめながら、第一回神戸国際宝飾展へいった。海も空もポートアイランの新緑や高層のビル群も、太陽をあびてさんさんとかがやいていた。正面ロータリーではデキシー・ランド・ジャズのパンジョーとベースが低音をきそいあって、国際宝飾展の開幕へとみちびいていった。

オープニングセレモニー

純白のドレスにかがやいた二名のパールプリンセスが登場してきた。つづいて、オープニングセレモニーの参列者が、展示場の正面の総合受付前の特設会場に、つぎつきに姿をあらわした。中央にこの第一回神戸国際宝飾展の主催者で、リード・エグジビジョン・ジャパン株式会社の代表である石積忠夫氏が立った。その右よこに、日本真珠振興会の会長である田崎俊作氏がならんだ。左よこに副会長の山本泉氏が立った。

神戸市の笹山幸俊市長が田崎氏とならんで立った。そのほかに神戸商工会議所の会頭である牧冬彦氏の顔があり、イタリア貿易振興会大阪事務所の副所長であるヴィットリオ・メコッソイ氏の顔もあった。ドイツ連邦共和国総領事館の総領事である



↑デキシーランドジャズが盛りあげた
←第1回神戸国際宝飾展のテープカットの瞬間



国内ジュエリーエリア内のメーカーとバイヤー



田崎氏をはさんで主催の石積氏と笠山神戸市長

ニルス・グルーベル氏が立つて、イ
ンド総領事館の総領事でアシヨー
ク・クマール氏もつた。財團法人
遠東貿易サービスセンター大阪事務
所の副所長である李富山氏が顔をな
らべた。世界真珠機構からアメリカ
を代表してテリー・デリア氏と同じ
くタヒチからマーチン・コエローリ
氏が、それにくわえてカナダを代表
してピエール・アッケリアン氏が、と、
国際色ゆかかな顔ぶれがならんだ。
司会者のマイクで、セレモニーが
はじめられた。パールプリンセスた
ちの手で、テーブカットの用意がす
すめられて、ファンファーレが高ら
かに鳴りたつた。九時四十五分だつ
た。この国際的な大セレモニーをひ
と目みようと、展示場の正面のロ
タリーは、足のふみ場もない人だか
りだつた。関係者のほかに、近くの
ビルのオフィスから顔をだした女性
たちが目だつた。

日本真珠振興会の会長である田崎
俊作氏があいさつに立つて壇上にの
ぼつた。田崎氏は第一回神戸国際宝
飾展の開幕をいまここにつげてから、
この宝飾展に、世界の二十一ヶ国の
地域から、約二百五十社の真珠や宝
石などの宝飾品が、この神戸国際展
示場に集結している、といつてから、
関係者にこの展示会が無事に成功す
るよう、協力をもどめた。

ニルス・グルーベル氏が立つて、イ
ンド総領事館の総領事でアシヨー
ク・クマール氏もつた。財團法人
遠東貿易サービスセンター大阪事務
所の副所長である李富山氏が顔をな
らべた。世界真珠機構からアメリカ
を代表してテリー・デリア氏と同じ
くタヒチからマーチン・コエローリ
氏が、それにくわえてカナダを代表
してピエール・アッケリアン氏が、と、
国際色ゆかかな顔ぶれがならんだ。
司会者のマイクで、セレモニーが
はじめられた。パールプリンセスた
ちの手で、テーブカットの用意がす
すめられて、ファンファーレが高ら
かに鳴りたつた。九時四十五分だつ
た。この国際的な大セレモニーをひ
と目みようと、展示場の正面のロ
タリーは、足のふみ場もない人だか
りだつた。関係者のほかに、近くの
ビルのオフィスから顔をだした女性
たちが目だつた。

日本真珠振興会の会長である田崎
俊作氏があいさつに立つて壇上にの
ぼつた。田崎氏は第一回神戸国際宝
飾展の開幕をいまここにつげてから、
この宝飾展に、世界の二十一ヶ国の
地域から、約二百五十社の真珠や宝
石などの宝飾品が、この神戸国際展
示場に集結している、といつてから、
関係者にこの展示会が無事に成功す
るよう、協力をもどめた。

この展示会の特徴は、ワールドバ
ルエリア、国内ジュエリーエリア、
海外ジュエリーエリア、ジエムズス
トーンズコーナー、宝飾関連製品コ
ーナーに分かれ、真珠以外の宝飾品
も数多く出品されていたことだつた。
会場の、2号館のワールドパール
エリアの宝飾空間で、真珠の美しさ
に見とれていると「タカハシパール」
の副社長である高橋洋三さんに出あ
つた。すばらしいですね、と声をか
けると、「なんせ第一回目ですからね、
神戸での宝飾展は。手さぐりでした
よ。自慢できるのは、神戸の企業が
中心となつて、世界中の真珠企業が
ここに集まつてることですね。そ
れに、黒蝶真珠コーナーや白蝶真珠
コーナーなどの、専門性の高い空間
をつくつてることですよ」と高橋
さんは胸をはつてから、よくひびく
男性的な声でさらにことばをはずま
せた。「神戸の町は震災で大きな打撃
をうけましたが、この国際宝飾展に
あわせて真珠の国際会議などのイベ
ントを行うことで、日本の国内はも
とより、世界中の宝飾業者に対し、
真珠の集散地として、ますますその
地域的機能が、重要視されている真
珠の都である神戸を広くアピールし
て、真珠そのものの啓蒙をはかつて
いく場にしたいですね」

シンポジウム 「アコヤ真珠の今日と明日」



展示場内は目がくらむ宝飾品があふれていた



国際色豊かなレセプションパーティ

午後二時から、神戸国際展示場内の二階会議室で「アコヤ真珠の今日と明日」をテーマにシンポジウムがひらかれた。百二十名の収容能力をもつ会場に、二百名をこえる参加者が顔を出して、主催者の真珠新聞社は対応におおわらわだった。

テーマは大別して、つぎの三つに分けることができた。まず、真珠をつくるということの、世界中で最高の知識水準と、いま海のなかでおこっていることの、化学的な分析を明らかにしていくこと。つぎに、母貝別に多種多様な真珠が、世界の海から供給されているが、真珠とは何か、真珠の品質とは何か、といった点に関して、日本の側から問題提起がなされた。いまひとつは、これから先のいっさいを包みこんだうえでの、日本の真珠業界としての決意の表明がなされた。

講師陣は、日本真珠振興会・世界真珠機構の会長である岡崎俊作氏を中心、元三重大学教授の和田浩爾氏と、ミキモト真珠研究所の所長である赤松蔚氏だった。和田氏は自分は真珠研究家である、といつてから、その立場での報告で、まずアコヤ貝が真珠をつくっていくプロセスを科学的に説明してから、移植、つまり

技術革新にふれてまだ進歩する要素はある、と報告した。さらには、遺伝的な特性と細胞の分化、品質にかかわる結晶や地球の温暖化の問題、生物が持つている機能が、今後のエンジニアリングのヒントになるのではないか、といったことや、生物産業と生きものの特性の研究や開発といったことの、今日的な情況を語った。

和田氏はアコヤの大量の変死にふれて、漁場の悪化や自然のエサの不足や、フグ養殖のホルマリンの影響や、ウイルス病説などにもその原因をさがしてから、アコヤ貝そのものが弱体化してきたのでは、と述べた。

赤松氏のテーマは、真珠の品質についての報告で、この問題の背景には、海場の老化と労働力の老化をあげさらには核の不足やゴカイの不足は、海が汚れているせいだろうといい、それらへの対応策として、JISのような真珠の規格化や品質委員会といった問題や、輸入真珠の品質のチェックにふれて、従来は生産者保護の立場だったが、今後は消費者を保護するうえでも、情報の開示の必要性がある、と述べた。

講師陣の語り口は、真剣そのものだった。「アコヤ真珠の明日」についての三人の問題提起も個性的で未来性にとんだ夢と希望をもたせるものだった。

レセプションパーティー



パールプリンセスが華やかさをそえた



シンポジウム場内は熱気につつまれていた

午後六時から、むかいにある『神戸ポートピアホテル』で、レセプションパーティーがひらかれた。このパーティーは、第一回神戸国際宝飾展の開催記念を祝つて、宝飾界を代表する人たちや、本展の出展社や、来場した人たちや、それにくわえて各國の大使館の関係者たちが、ホテルの『賛美の間』に四百名以上も参加して、盛大におこなわれた。

主催者を代表して、リード・エグジビション・ジャパン株式会社の代表取締役の石積忠夫氏があいさつに立つて、宝飾展の開催にいたるまでの過程を述べてから、「真珠の集散地で、世界的な取引の中心地である神戸で、大規模な展示会を開催することによって、真珠の街・国際都市神戸を、全世界にさらにはアピールしたい」と決意のほどをあきらかにした。つづいて特別後援会長である田崎俊作氏が壇上にたって、この国際展示会の開催の意義をつぎのように述べた。

「まず第一に、真珠の一大集散地として世界的に名高い神戸にとって、初めての国際トレードショードとなること、またこれによつて、真珠の街・神戸を、広く内外の関係者にアピール出ること、第二に二十一世

紀の初頭に、日本真珠振興会が、真珠業界からの情報発信の一大拠点として、神戸のポートアーランドに建設を予定している『ワールドパールセンター』の実質的な下地づくりの一環をはたすこと、第三に、震災後の神戸復興のための有効な経済活性化の材料となることの、この三点であります」会場内に拍手が鳴りわたつて、乾杯の用意がととのえられた。

オープニングセレモニーの東京ディズニーランドの、デエキシーランドジャズの生バンドが、トランペットやトロボーンでパーティーの雰囲気をつくりはじめた。参加者たちが祝杯のビールでのどをうるおすと、パープルプリンセスたちはカメラのフラッシュユをあびはじめた。料理やアルコールがふんだんにはこぼれて、会場が宝飾展から豊食展へとプログラムがすすめられたような格好だった。

ポートピアホテルをあとにして、市民広場駅からポートライナーにのつた。車窓にハーバーランドの巨大な観覧車が見えた。宝石のように光りかがやいていた。めずらしく星がっていた。美しいと思った。金星がぴかっ、ぴかっ、と、とめどなくまばたきをくりかえしていた。神戸の街の灯が、そのまばたきに輝きかえっていた。